

地理空間情報の調達と利用（地方公共団体向け） 配布資料リスト

※(1)～(4)は、クリップ留め。(5)ワークシート・
(6)サンプルデータは、それぞれ別配布。

(1) 配布資料 1 道路竣工データ製品仕様書（案）【第 1 版】

道路整備工事は、その意思決定後、測量・設計を実施し将来の形状を示し、それをもとに施工、施工結果をもとに測量や出来高測定を行い、形状やスペックを取りまとめた竣工図書を作成し、これをよりどころに管理を行う。

この測量については測量法の定めにより作業規程の準則（平成 20 年 3 月 31 日に改正）等を準用して定めた作業規程に基づき公共測量を実施するが、成果として取得する地理空間情報については、製品仕様書、品質評価、メタデータ等の作成が必要である。

道路設計段階においては、公共測量作業規程の各項目を網羅すれば、比較的容易に地理空間情報が取得可能である。しかしながら設計は将来を想定した情報であるため、工事後に改めて結果を取得する必要がある。

後の道路維持管理においては、各地方公共団体では、道路台帳を調製して管理を実施しており、その情報取得仕様が定められている場合も多い。

しかしながら、竣工直後の状態を竣工図書に正確に表現することにより、迅速に現地状態を把握しいち早く管理が実施でき、後の道路台帳調整業務の削減が可能になる。

この「道路竣工データ製品仕様書（案）」は、竣工図書の段階で、正確な地理空間情報を取得し、利活用のために流通させるための製品仕様書である。

なお、「(案)」であるのは、各種発注においてそれぞれ発注仕様を定めるが、この際に引用する案であるため。

(2) 配布資料 2 道路竣工データ製品仕様書（案）【第 1 版】附属書 符号化仕様

製品仕様書上では、スキーマや各種項目の名称は、利用者の理解を促すために日本語で記述している。

これを xml の実記述では、符号化する必要があるため、アルファベットで記述するが、この日本語とアルファベット表記の対照表である。

(3) 配布資料 3 竣工成果の作成および引継ぎに関する手引（案）【発注者版】

製品仕様書の運用は、一般の測量・設計従事者にはやや難解である。

地方公共団体の各工事発注時において、監督員および現場従事受託・請負者の理解を促すための手引書である。

この手引には、製品仕様書のみならず、道路工事における製品仕様書による成果の作成の目的、発注から引き継ぎ、維持管理までの流れの各工程において工事と完成後に必要な各種情報の準備・手続き・利用法、そして竣工時に必要な各種図書とその引き継ぎ方法、維持管理までを「地理空間情報」の視点から網羅したものである。

(4) 配布資料 4 道路竣工データの実運用に向けた段階的な整備計画（案）

この製品仕様書を用いた地理空間情報の取得・流通の流れが地方公共団体の道路工事部門で定着するには、相当の期間を要する。

定着には目標を定め、徐々に定着を図る必要がある。

道路竣工データという、地方公共団体業務の現場として新たな地理空間情報が取得されて典型的な現場であり、具体的な定着計画を示すことにより、組織的に活動が実施できる。

なお、他の行政情報からの地理空間情報取得についても、同様に計画を持つべきであり、そのプロセスは類似しているので、本整備計画（案）を参考にされたい。

(5) ワークシート 【1.5：ワーク】空間情報整理表

講義途中に挟むワーク(簡易な演習)に使用。講師からの受講生へのヒアリングで挙げた、各所属先での地理空間情報の利活用について、「地理空間情報の調達と利用_ワークシート_【1.5：ワーク】空間情報整理表」に記入することにより地理空間情報が身近であることを理解する手助けとなる表。

A4 に両面印刷（表裏同じもの）により 6 件分記入が可能。

(6) サンプルデータ 【参考】(修正版：公共座標)

実例紹介に使った道路竣工成果の模式図と同じ形状・座標値について、資料として配布した製品仕様書、符号化仕様をもとに XML 記述したサンプル。

90 分を超える講義では、XML 記述方法について解説・演習を行ってもよい。

製品仕様書等、各配布資料を理解の手助けとなるよう本資料に添付。